

デュフロンD F ルーフ
ターペン可溶フッ素樹脂トタン屋根用塗料

3-026R8X-00-01
日本ペイント株式会社
製品使用説明書

- 特 長
- ・弱溶剤系であるため、臭気がマイルドで、下地を選ばずに塗装できます。
 - ・乾燥が速く、作業性にすぐれています。
 - ・耐候性、光沢保持性が非常に優れています。
 - ・弱溶剤を使用した2液形のフッ素樹脂塗料です。
 - ・鉛、クロム顔料を一切使わない環境にやさしい塗料です。

□ 塗 料 性 状

塗 料 液 (主 剤)		硬 化 剤
色		無色
常備色 (枠内記載)		
密度(g/cm ³) (23℃)		1.01
光 沢		つや有り
引 火 点		41
発 火 点		41
190 (参考値)		454 (参考値)
消防法 表 示	化 学 名	合成樹脂エナメル塗料
	危険物区分	合成樹脂クリヤー塗料
	危険物等級	第4類 第2石油類(非水溶性)
III (火気厳禁)		第4類 第2石油類(非水溶性)
III (火気厳禁)		
有機溶剤区分		第3種
毒 劇 物 表 示		第3種
有 害 物 表 示		-
国 連 / 指 針 番 号		ポリイソシアネート
1263/128		1866/128
環 境 性 能	ケルミル・リキ	配合せず
	キシレン	0.6%
	スチレン(モノマー)	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず
T V O C	フェノールカルボン酸	配合せず
	鉛	配合せず
	鉛	配合せず
	鉛	配合せず
44.1%		
商 品 ラ イ ン ナ ッ プ		ブラック、ナイスブルー、チョコレート(N)、セリアンブルー、サニレッド、インペラブルー、アビター、マーズレッド、ニューワイン、コーヒブラウン、ビーバーレッド、ホワイト

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

□ 塗 装 基 準

- 混 合 比：2液形のため、「塗料液(主剤)：硬化剤＝9：1(重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。
- 荷 重：15kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤＝13.5kg：1.5kg)
- ポットライフ：6時間(23℃)
- 希 釈 剤：塗料用シンナーA
- 塗 装 方 法：

塗 装 方 法	はけ、ウールローラー塗り	エアレススプレー塗り
希 釈 率	0～10%	5～15%
使 用 量	0.12～0.14kg/m ² /回	0.12～0.14kg/m ² /回
膜厚(ドライ)	25μm/回	25μm/回
膜厚(ウェット)	55μm	55μm

- ・上記の数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

乾 燥 時 間：

	5～10	23	30
指 触 乾 燥	60分	30分	20分
塗 り 重 ね 乾 燥	4時間以上7日以内	3時間以上7日以内	2時間以上5日以内

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 特 記 事 項

- ・昼夜の温度差が激しい時期や、山間部など夜露の早く降りる地域では、結露によるつや引け現象が起こりやすいため、早めに塗装を終えて十分に乾燥時間を確保してください。塗装後早期に結露の影響を受けると光沢低下や膨れ、割れ、はく離の原因になります。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・なみがたトタンの山の部分やトタン板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。先に拾い塗りするのが長持ちさせるコツです。
- ・塗り重ねは規定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。硬化が不十分な場合は、塗料用シンナーで再溶解するおそれがあります。
- ・トタン素地が見えている所、さびの生じている所はケレン後、必ずさび止め塗料を塗装してください。使用できるさび止め塗料については、各塗装仕様書をご参照ください。
- ・鉛酸カルシウムさび止めは、下塗りに使用しないでください。
- ・塩ビゾル鋼板の上の塗装は、避けてください。ただし、経年でつやが引けているような塩ビゾル鋼板に対しては、変性エポキシ樹脂プライマーを下塗りに使用することで塗装できる場合があります。詳細は事前にご相談ください。
- ・積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦棒の凸部にこすり付けるように増し塗りを行ってください。
- ・塗り替え後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。
- ・十分な塗膜性能を確保するため、規定の使用量をおまもりください。
- ・ごみ・ほこり・砂・油・樹液などは、塗装前に水洗い、溶剤拭きなどで十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。

□ 注 意 事 項

- ・ 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・ 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・ 異なる色相を塗り重ねる場合（例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など）2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色（ブリードにより）する場合がありますのでご注意ください。
- ・ 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・ 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・ 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
- ・ 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- ・ 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・ 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・ 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- ・ 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ・ 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・ 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・ 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・ 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・ 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの

条件を同一にしてください。

- ・ はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・ 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ・ 汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・ ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・ 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・ 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・ 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・ 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。